

## 第1回JR川越線利便性向上推進協議会概要

### －開催概要－

- 1 日 時 令和5年3月23日（木曜日） 16:00～17:10
- 2 場 所 WEB会議
- 3 出席者 別添のとおり
- 4 議 事
  - （1）本協議会の設立趣旨について
  - （2）さいたま市・川越市のJR川越線の利用人員増に資する地域の取組について
  - （3）JR川越線の輸送人員の現状と羽田空港アクセス線の事業内容について
- 5 配布資料
  - ・次第
  - ・名簿
  - ・資料1 JR川越線利便性向上推進協議会の設立趣旨について
  - ・資料2 さいたま市のJR川越線の利用人員増に資する地域の取組について
  - ・資料3 川越市のJR川越線の利用人員増に資する地域の取組について
  - ・資料4 JR川越線の輸送人員の現状と羽田空港アクセス線の事業内容について

### －議事概要－

- ・事務局から、JR川越線利便性向上推進協議会の設立趣旨について、資料1により説明があった。
- ・県から、複線化の検討に向けた環境整備として、利用人員の増加が必要であり、そのための利便性向上については、まちづくりの主体であり、利便性向上により直接の効果が発生する地元紙の意向が何よりも重要である。県としては、関係者と情報共有しながら、さいたま市・川越市の意向を踏まえ、対応について協力していきたいとの考え方が示された。
- ・さいたま市から、JR川越線の利用人員増に資する地域の取組について、資料

2により説明があった。

- ・川越市から、西大宮駅の南側において現在進められている土地区画整理事業について、進捗状況の質問があった。さいたま市からは、昨年度末時点における進捗率は事業費ベースで約45%となっているとの回答があった。
- ・県から、大宮駅グランドセントラルステーション化構想については、大宮GCSまちづくり調整会議に企画財政部地域経営局長が、大宮駅西口交通結節点強化に向けたプロジェクトについては、検討会に都市整備部長、県土整備部長がそれぞれ委員として参加し、それぞれの立場から意見を申し上げている。今後も県としてさいたま市と連携して事業執行に取り組んでいきたいので、協力させていただきたいとの発言があった。
- ・川越市から、JR川越線の利用人員増に資する地域の取組について、資料3により説明があった。
- ・さいたま市から、観光客数に関する説明の中で、新型コロナウイルス感染拡大前は鉄道の利用が多かったが、感染拡大以降は自家用車の利用が多いという傾向にあるとの話があったが、どのくらい増えたのかとの質問があった。川越市からは、毎年実施している観光アンケート調査報告書によると、コロナの影響がなかった令和元年とコロナ後の令和3年を比較すると、鉄道が4ポイント減少し、自家用車が約6ポイント上昇した。なお、調査の中で出発地を伺ったところ、埼玉県と回答した方が、令和元年と令和3年を比較すると約25ポイント上昇したということで、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてマイクロツーリズムの割合が高まっているとの分析がされている。現状では県内から多くの方が来ているということもあるので、公共交通の利用促進に関して今後、埼玉県、さいたま市とも連携しながら、鉄道をはじめとした公共交通を利用して川越にお越しいただけるよう、利用促進策を実施したいと考えているとの回答があった。
- ・県から、伊佐沼のグリーンツーリズムの拠点施設については、川越の新たな魅力となるポテンシャルを秘めているかと思う。県でも農林部でグリーンツーリズムのPRを積極的に行っているため、そうした点でも連携を図っていくことができると考えているとの発言があった。
- ・議長から、本日紹介いただいた取組については、自治体間で連携を図ることが大事であるとの発言があった。

- ・ J R 東日本から、 J R 川越線の輸送人員の現状と羽田空港アクセス線の事業内容について、資料 4 により説明があった。
- ・ さいたま市から、東山手ルートは、宇都宮線・高崎線方面から羽田空港へのアクセス強化につながるので、本市としても意義の大きいものと考えている。引き続き早期完成に向けて取り組んでいただきたい。また、川越線の輸送人員を増やしていくためには、沿線のまちづくりを進めて定住人口や交流人口を増やしていくことが重要であると認識している。沿線のまちづくりを進めるにあたり、 J R 東日本には今後も御協力をお願いしたいとの発言があった。
- ・ 川越市から、川越線の利用状況についての説明の中で、川越駅を利用している方が他の駅と比べても大変多いことを改めて認識した。ここまで多い理由としては、川越駅に乗り入れている他の路線から乗り換えて利用されている方も多いのだろうと推察される。そういう意味では、東西交通の軸として、他の路線を乗り継いで最後東に向かうという役割を發揮しているということが言えるのかと思う。こうしたことも含め、本市から大宮へのアクセスの良さというのも本市の魅力として我々としてもしっかりアピールしていく必要があるのかと思う。そういったところでも引き続き埼玉県、さいたま市と連携させていただければと思う。先週末の 3 月 19 日に、別の協議会の取組にはなるが、 J R 東日本の協力のもと、沿線自治体とも連携し、「 J R 川越線こどもイラストコンクール」の表彰式を行った。こちらも J R 川越線の魅力を発信することを目的として実施している。このような形で、 J R 川越線の魅力や沿線のまちの魅力について引き続き J R 東日本にも協力をいただきながら埼玉県、さいたま市とともに連携して取り組んでいければいいと考えているとの発言があった。
- ・ 議長から、本日の会議の確認事項として、県から本協議会の設立趣旨を説明するとともに、さいたま市、川越市から現在のまちづくりをはじめとした利用者増への取組を説明いただいた。 J R 東日本からは川越線の現在の利用状況や、将来、川越線の利用者増につながる、大変期待の高い羽田空港アクセス線についての説明をいただいた。今後はこのような取組を共有し、県と市それぞれの立場で連携・協力して相乗効果を図っていきたいと考えている。今後も本協議会を通じて最新の状況を報告していただくこととするとの発言があり、了承された。

以上